

9月24日～30日は、結核・呼吸器感染症予防週間です。

正しく知ることが、予防の第一歩！この機会に結核について知ってください。

結核は、まだまだ身近な病気です

日本では1年間(令和6年)で

新登録
患者数

:10,051人

死亡者数
(概数)

:1,461人

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。
結核患者の咳などで菌が空気中に飛び散り、それを周りの人が
直接吸い込むことで感染します。

結核は過去の病気ではなく、今でも「年間1万人以上」の新
規患者が発生しています。



和歌山県の結核罹患率※は、全国ワースト5位という状況にあ
ります！（※人口10万人に対する新規結核発病者の割合です）

（令和6年の全国の罹患率は8.1で、和歌山県の罹患率は10.2です。）

働き世代の結核

- 働き盛りの方は職場などで多くの人々に接する機会があるため
結核の診断が遅れた場合、感染が特に広がってしまう恐れがあ
ります。
- 日本では、3割以上の結核患者が就労世代（20歳以上65歳
未満）です。また、若年層（20-29歳）の新規患者の9割を外国
生まれの患者が占めています。
- 多様な人が働く現代において、誰もが協力して予防する必要があります。





忙しい毎日、その咳いつからですか？

結核の主な症状

肺結核の症状は、風邪等の呼吸器系の病気の症状とよく似ています。
次のような症状が続くようでしたら、医療機関を受診しましょう。



☐ 2週間以上続く 咳、痰、発熱、体のだるさ

☐ 食欲の低下 ☐ 体重減少 ☐ 寝汗
など

結核は働きながら治せます

・結核と診断されても、きちんと薬を服用すれば治ります。
早期に発見すれば入院せずに、仕事をしながら治療を
することができます。



・もし入院が必要となっても、退院基準を満たせば、通院に切り替えて
仕事をしながら治療をすることができます。

症状がなくても、年に1度は胸部レントゲン検査を受けましょう！

結核の感染経路は空気感染です。結核菌は空気中を漂う時間が長く
誰もが感染する可能性があります。

自分自身の重症化を防ぐことはもちろん、家族や職場への感染を防ぐ
ためにも、早期発見・早期治療が重要です。

症状がなくても、年に1度は胸部レントゲン検査で

和歌山市の結核の現状は、
和歌山市感染症情報センターのホームページに掲載しています
<http://www.kansen-wakayama.jp/page/page005.html>



和歌山市保健所 保健対策課 感染予防対策グループ TEL:073-488-5118

感染症対策へのご協力をお願いします

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。医療機関や高齢者施設などでは、重症化リスクの高い方への感染予防のためマスクの着用を求められることがあります。

正しい手の洗い方



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすりつけます。



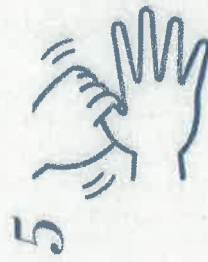
手の甲をのばすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。



手首も忘れずに洗います。

3つの咳エチケット



マスクを着用する



ティッシュハンカチで口・鼻を覆う



袖で口・鼻を覆う

正しいマスクの着用



- ①鼻と口の両方を確実に覆う
- ②ゴムひもを耳にかける
- ③隙間がないよう鼻まで覆う

こまめな換気



ときどき窓を開けて空気を入れ替える



厚生労働省

ひと・くらし・みらいのために
Ministry of Health, Labour and Welfare

